

日本文学検定委員会 編

日本文学検定
公式問題集 2級 [近現代]



目次

	はじめに	3
	日本文学検定〔古典〕・〔近現代〕 2級・3級概要	7
1	牛鍋と人力車―文明開化の象徴―	12
2	福沢諭吉と文学	16
3	政治小説の登場―自由民権運動の展開―	19
4	翻訳小説―西洋文明の導入―	22
5	坪内逍遙の写実主義	26
6	言文一致への試み	29
7	三遊亭円朝と言文一致	32
8	森鷗外(一)―『舞姫』―	35
9	硯友社の人々	38
10	幸田露伴―紅露の時代―	41
11	明治二十年代の文学論争	43
12	「恋愛」のはじまり	45
13	高山樗牛の思想	48
14	女性の近代文学	51
15	樋口一葉―明治女性の生き方―	53
16	自然描写と文学―風景画家アオンタネ―ジが与えた影響―	56
17	前期自然主義―小杉天外の文学―	59
18	後期自然主義―島崎藤村・国木田独歩・田山花袋の文学―	62
19	夏目漱石の文学活動	64

20	新聞連載小説の開始と挿絵	67
21	森鷗外(二)―文壇への復帰―	69
22	大逆事件の反響―永井荷風・徳島蘆花・森鷗外―	72
23	個人主義の発展	74
24	漢詩文の衰退	77
25	通俗小説の流行と文壇交友録小説の出現	79
26	大衆文学の確立―『大菩薩峠』―	82
27	芥川龍之介―作品の改変―	84
28	編集者たちの闘い	87
29	明治・大正期の幻想文学	90
30	造語・流行語―時代を映すことば―	92
31	作家と芸妓娼妓―文学者の恋と結婚―	94
32	新しい食文化の登場と文学(一)―ライスカレー―	96
33	新しい食文化の登場と文学(二)―パンの普及―	98
34	中国と日本文学	101
35	「話の筋」論争―芥川龍之介と谷崎潤一郎―	103
36	プロレタリア文学	105
37	太宰治と芥川賞	107
38	発禁処分をうけた文学(二)―戦時下の言論統制―	109

1	日本近代詩の黎明	244
2	明星派の人々	247
3	与謝野晶子―鉄幹との二人三脚―	249
4	上田敏―『海潮音』の達成―	252
5	口語自由詩―枝分かれする二つの試み―	254
6	『五足の靴』―詩人たちの九州紀行―	256
7	新傾向俳句から自由律俳句へ	258

解説・解答

8	自由律短歌	261
9	三好達治―新たな抒情世界―	264
10	宮沢賢治―没後の評価―	266
11	桑原武夫の俳句論	269
12	寺山修司の仕事	271
13	詩歌人と酒	273
14	奈良に魅せられた人々(一)	276

模擬試験

模範解答	287
------	-----

解説・解答

解説・解答	308
-------	-----

付録

付録	315
----	-----

コラム一覧

「文学」って何?	15
「文学史」という眼鏡	25
山中峯太郎の「霊界放送」	81
河鍋暁斎―時代を乗り越える力―	185
草稿の研究	218

坪内逍遙の演劇博物館	243
雨ニモ負ケテ風ニモ負ケテ	268
透谷の妻	281
夏目漱石の酒句	285

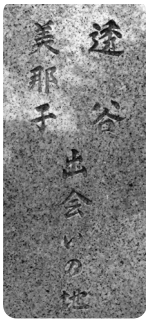
練習問題



「恋愛」のはじまり

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

「恋愛」という言葉は love の翻訳語として、明治中頃から一般化したものであることが知られている。近代以前には「恋」や「愛」という言葉はあつたし、恋の歌や物語も数多く作られたが、「恋愛」という語はなかつた。当初「恋愛」は、キリスト教の影響からその精神性を重視する言葉として用いられた。その代表的なものが、北村透谷の評論『「イ」』で、「恋愛は人生の秘鑰なり（秘密の鍵である）」という冒頭の一節は、のちに木下尚江が「まさに大砲をぶちこまれた様なものであつた」と回想しているような強い衝撃を青年たちに与えた。



自由民権の碑（東京都町田市／民権の森公園内）

問1 傍線部ア「北村透谷」によって、「元禄文学」の悪い影響を受け、「恋愛」ではなく「好色」を描いていると批判されたのは尾崎紅葉である。批判を受けた紅葉の作品を選びなさい。

- ① 対髑髏
- ② 浮雲
- ③ 伽羅枕
- ④ 蝴蝶

問2 空欄イに当てはまる題名を選びなさい。

- ① 人生に相渉るとは何の謂ぞ
- ② 「しからみ草紙」の本領を論ず
- ③ 厭世詩家と女性
- ④ 現代日本の開化

問3 尾崎紅葉門下の泉鏡花は、『愛と婚姻』という文章を著し、「愛は自由なり」として愛のない結婚を否定、そうした観念を表した小説（伯爵夫人が医学士との恋愛に殉じるという内容）も書いた。その小説を選びなさい。

- ① 外科室
- ② 義血侠血
- ③ 化銀杏

- ④ 夜行巡査

問4 夏目漱石の小説で、パオロとフランチェスカの悲恋（フランチェスカは夫の弟パオロと互いに慕い合うが、夫に見つかり殺される）について、一郎という登場人物が弟の二郎（二郎は妻と二郎との関係を疑っている）に、「人間の作った夫婦という関係」より「恋愛」の方が「神聖だ」と語る。この小説を選びなさい。

- ① 明暗
② ころも
③ 行人
④ それから

問5 傍線部ウ「木下尚江」の小説を選びなさい。

- ① 無限抱擁
② 別れた妻に送る手紙
③ 夫婦善哉
④ 良人の自白

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

平安時代の『伊勢物語』にも描かれている隅田川は、近代文学においても印象深いものである。明治末期に、北原白秋、木下杢太郎ら若い詩人たちが、石井柏亭、山本鼎らの画家たちと始めた「ア」では、江戸の雰囲気を残す隅田川界限を、あたかも外国の街を見るように賛美した。すなわち江戸情緒や異国情緒が彼らの心を動かしたのである。谷崎潤一郎と芥川龍之介は隅田川の近くで生れ育った。ことに芥川は初期の文章『大川の水』で「自分は大川あるがゆえに、『東京』を愛」すると、自分の原点ともいべき隅田川への愛を語っている（大川は隅田川下流の通称）。隅田川を作品の装置として効果的に用いた永井荷風の小説『すみだ川』では、少年の夢と哀しみが隅田川の四季の移ろいととも描き出されている。



隅田川
(東京都中央区／勝どき橋付近)

問1 空欄アに当てはまる言葉を選びなさい。

- ① パンの会
- ② 龍土会
- ③ 木曜会
- ④ 雨声会

問2 空欄アと関わりの深い木下李太郎の詩集を選びなさい。

- ① 東京景物詩及其他
- ② 殉情詩集
- ③ 食後の唄
- ④ 抒情小曲集

問3 明治三十五年に『水の東京』で隅田川をはじめ東京の河川を紹介し、昭和十三年には小説『幻談』で江戸時代の隅田川を舞台に怪談を仕立てた人物を選びなさい。

- ① 坪内逍遙
- ② 森鷗外
- ③ 幸田露伴
- ④ 尾崎紅葉

問4 島崎藤村は明治三十九年から隅田川のほとりの浅草新片町に住んだ。ここで起きた家庭内の出来事から逃れるように、大正二年に単身渡仏する。この出来事を告白した私小説を選びなさい。

- ① 夜明け前
- ② 桜の実の熟する時
- ③ 新生
- ④ 家

問5 傍線部イ「永井荷風」の小説『澤東綺譚』（「澤」の字は隅田川を表す）の内容や関連事項について、正しくないものを選びなさい。

- ① 向島寺島町の玉の井を舞台に小説家と女との交情が描かれている。
- ② 作品のいたるところで隅田川の描写が効果的に用いられている。
- ③ 昭和十二年に「朝日新聞」に連載され、木村莊八が挿絵を描いた。
- ④ 漫画家の滝田ゆうはこの土地の出身で『寺島町奇譚』を描いた。

問1 ①「余」（太田豊太郎）は帰国する途中セイゴンの港で、ドイツ・ベルリンでのエリスとの出来事を想起している（まだ日本に着いていない）。②エリスと出会ったのは、華やかなメインストリート「ウンテル、デン、リンデン」ではなく、狭く薄暗い「クロステル巷」である。③天方伯に随行した行き先はロシアで、エリスから「否」で始まる思い詰めたような手紙がくる。④エリスと別れて日本に帰る段取りをしてくれたのは友人の相沢謙吉だが、「一点の彼を憎むころ」が今でも残っている。

問2 『普請中』は明治四十三年「三田文学」に発表。他の選択肢も鷗外の小説。

問3 『妄想』は明治四十四年「三田文学」に発表。鷗外は明治二十年代、坪内逍遙との没理想論争などで、ドイツの哲学者・ハルトマン（鳥有先生）の美学を根拠に論陣を張った。

問4 『うたかたの記』は『舞姫』『文づかひ』とともにドイツ三部作と呼ばれる。

問5 「三木」は「森」という漢字から、「竹」も「篤次郎」という本名に由来する。

9 問1:② 問2:② 問3:①

問4:④

問5:④

問1 文士劇とは、小説家をはじめ文化人が演じる素人芝居のこと。明治二十三年佐藤黄鶴邸で、尾崎紅葉、江見水蔭、巖谷小波ら硯友社のメンバーが上演したのが最初とされる。このほか硯友

社関係では、「我楽多文庫」という文学同人雑誌の発刊（文学以外ではすでに「明六雑誌」の例がある）も最初といわれる。④運座は俳諧の集まりで一つの題について句を作り、互選する会のこと。硯友社も紫吟社という俳句結社を興していたが、運座を新たに定式化したのは正岡子規ら日本派であるとされる。①文学賞が盛んになるのは昭和から。

問2 硯友社の機関誌「我楽多文庫」は、明治十八年創刊。最初は筆写回覧雑誌だが、やがて印刷され、公刊された。

問3 巖谷小波は明治二十八年から博文館の雑誌「少年世界」を主宰し、『日本昔話』『日本お伽噺』『世界お伽噺』などのシリーズを刊行、童話の口演や児童劇でも先駆的な役割を果たした。

問4 作品のまえがき「作者曰」で、尾崎紅葉は「此小説は涙を主眼とす」と宣言している。また、文章について「在来の雅俗折衷おかしからず。言文一致このもしからずで。色々気を揉みぬいた末……一風異様の文体を創造せり」とし、独自の文体の創出に意を用いたことがうかがわれる。この作品を「脚色の為めにみに人物を使用せずして人物の為に人物を使用せよ」と批評したのは石橋忍月（『新著百種の『色懺悔』明治二十二年）。

問5 ①④は紅葉門下の四天王とよばれた。そのうち泉鏡花が『夜行巡査』『外科室』の観念小説で、いち早く注目された。

10 問1:② 問2:③ 問3:③

問4:②

問5:④